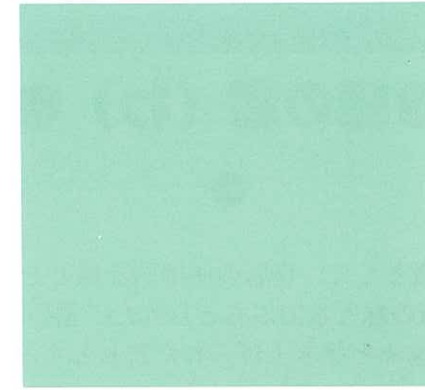
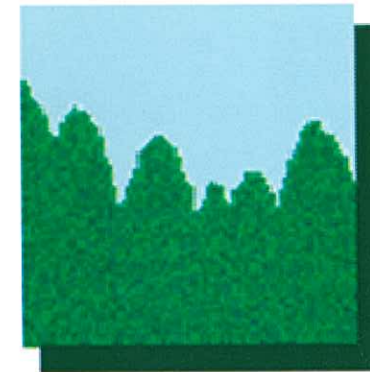




2.育まれた自然

江戸ー東京の歴史を伝える水辺と緑の自然を活かす



●緑の環（わ）●

千代田区の特徴として、皇居の圧倒的な緑とそれを取り囲む
内濠、外濠の緑と水でふちどられた二重の環がある。
これは江戸以来、営々と築き上げられた誇りとする共有財産である。



対 処

緑の環に面する建造物は、緑の環がきわだつよう最大限の配慮をする。
歩行者が緑の環に沿って連続的に歩くことができ、この個性的な特徴を
体感できるような場所や構成を整えていく。

手法例

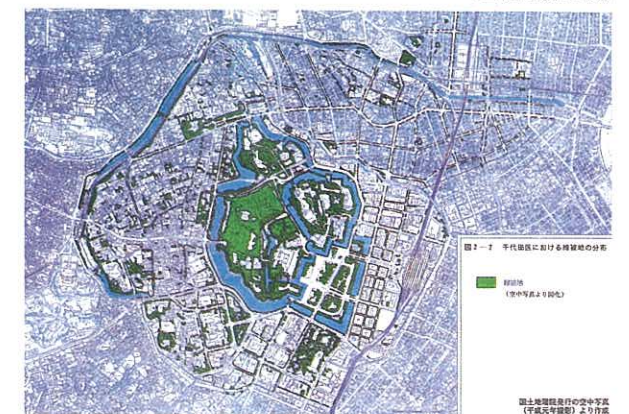
- 内濠に沿って帯状の開けた空間を設け（三宅坂から半蔵門を経て九段坂までの間）、広く人々に共有される場所とする。
- 濠の水と緑に対峙する建物正面を丹念につくり込む。風格ある素材、意匠、形態などを採用する。
- 外濠に沿った建物は、濠ごしの背景として全体のつながりに配慮する



『皇居外苑全景』

関連キーワード

- 眺めの映える場所 ●12
- 水にふれる場所 ●34
- つながる緑 ●40
- 歩行路のネットワーク ●78
- 高さの分節 ●106



千代田区の緑被地分布

●水に触れる場所●

水辺は人々を引きつけ、あきることのない景観を提供する。

人々が近づくのを拒絶した水辺は、
目の行き届かない汚れた場所になりがちである。

緑あふれ、光がふりそそぐ
視界の開けた水辺は絶好の憩いの場となる。



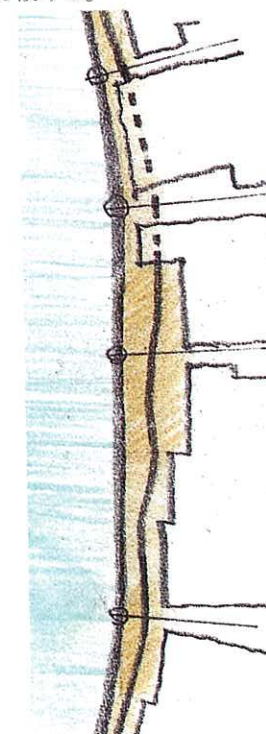
『千鳥ヶ淵ボート場』＊

対 処

水辺に沿って帯状のオープンスペースを確保し、できるだけ連続性をもたせる。
水辺に面する敷地の利用は、水際からの眺めも配慮し、多くの人に開放し、
ゆとりとやすらぎを与える場所づくりにつとめる。

手法例

■水際に沿って帯状につながる
共有地を設け、人々が集まれ
る場所や水際に沿った歩行路
を設ける。

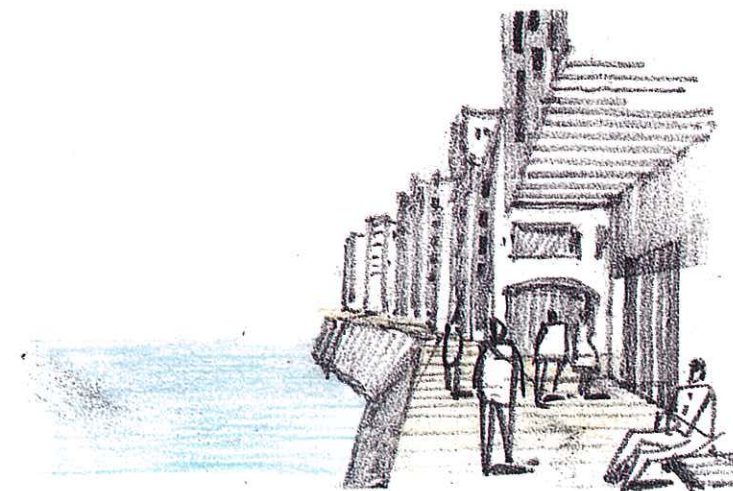


■景観上重要な水辺は、できるだけ陽の当たる場所とする。



『皇居外苑』

■水際からの眺めを大切にし、水辺の賑わいや風景を眺められる場所を設ける。



関連キーワード

- 眺めの映える場所 ●12
- つながる緑 ●40
- 身近かな花 ●48
- 子供の笑い声 ●50
- 陽のあたる場所 ●84
- 座れる場所 ●88

●敷地の特性●

眺めの一部となる建築は、敷地になじんでいる。
それは敷地のもつ特性をこわさずに
活かしているからだ。

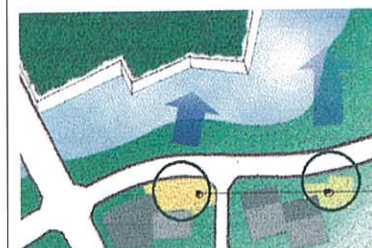


『明治東京名所絵図』より

対処

敷地内の美しい場所を残し、敷地の特性を最大限に活かす。
埋もれてしまったり見えにくくなってしまった美しい場所を積極的に修復、
復元するように努めていく。

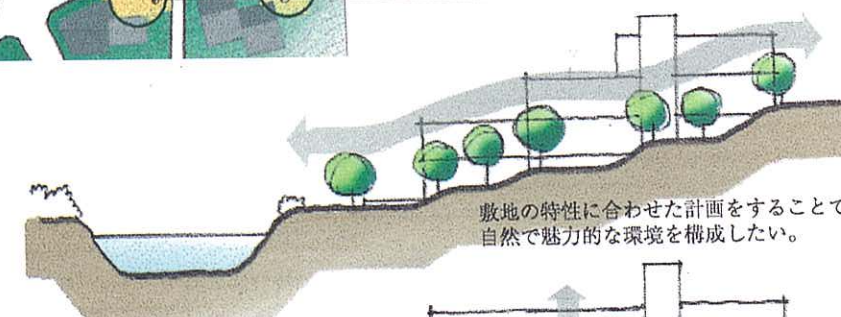
手法例



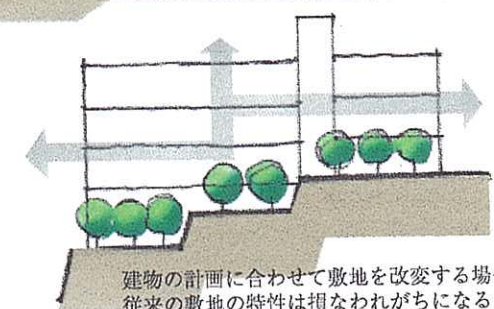
■敷地内の美しい場所、眺めの映える場所や歴史を伝える
大樹などには手をつけずそのまま残し、その場所をでき
るだけ共有の場とする。

■建設に際し、条件の悪い場所（窪地、湿地など）を改善
するよう努力する。また、特に周囲に比べ、地形の低い
ところでは浸水対策も考慮する。

眺めの映える場所を共有の場とする。



敷地の特性に合わせた計画をすることで
自然で魅力的な環境を構成したい。



建物の計画に合わせて敷地を改変する場合
従来の敷地の特性は損なわれがちになる。



昔から高低差のある敷地の特徴をそのまま活かし、貫通道路として整備した例。
『赤坂プリンスホテル公開空地』

関連キーワード

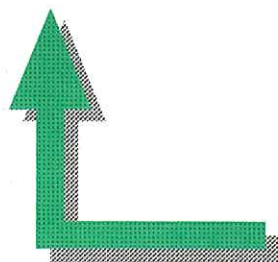
- 眺めの映える場所 ●12
- 年輪を重ねた樹 ●14
- 敷地の履歴 ●16
- つながる緑 ●40
- 陽のあたる場所 ●84

● 広場から広場 ●

小さな広場を視覚的にも機能的にも連続させることで、
人々の生活をつなぐ
より大きな共有空間とすることができる。



『霞ヶ関ビル前の広場』



対 処

中心となる広場に接して計画する場合は、これと相乗効果を生む多様な広場を配置していく。また街区単位で歩道状空地を連続させたり、その空地がさらに次の広場や生活拠点、活動の節点へとつながる歩行路と接続させていく。

手法例

- 建物、歩道、広場を連続的に歩けるように構成する。
- 計画地に隣接する歩道状空地、公共敷地、広場は相互につながるように計画する。

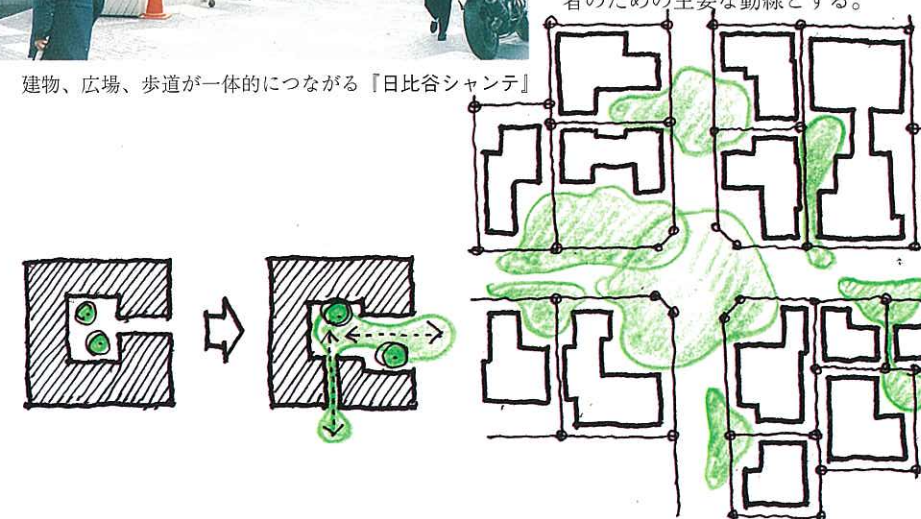


公開空地、歩道、サンクン広場が一体的につながっている『新お茶の水ビル』



建物、広場、歩道が一体的につながる『日比谷シャンテ』

- 行き先のない広場はつくらず、主要な歩行路と複数ヵ所でつなぎ、歩行者のための主要な動線とする。



関連キーワード

- つながる緑 ●40
- 歩行路のネットワーク ●78
- 交流の場所 ●80
- 中心となる広場 ●102

●つながる緑●

緑はつながり、かたまることでより大きく、良好な環境を形づくっていく。
新たに緑を植えるとき、隣地の緑や公共空間の緑と
一体化させるような配慮によって環境の豊かさをつなぐことができる。



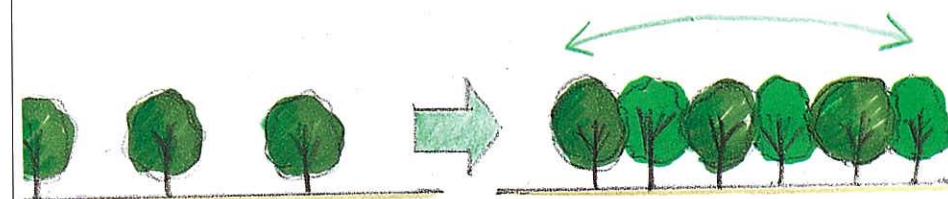
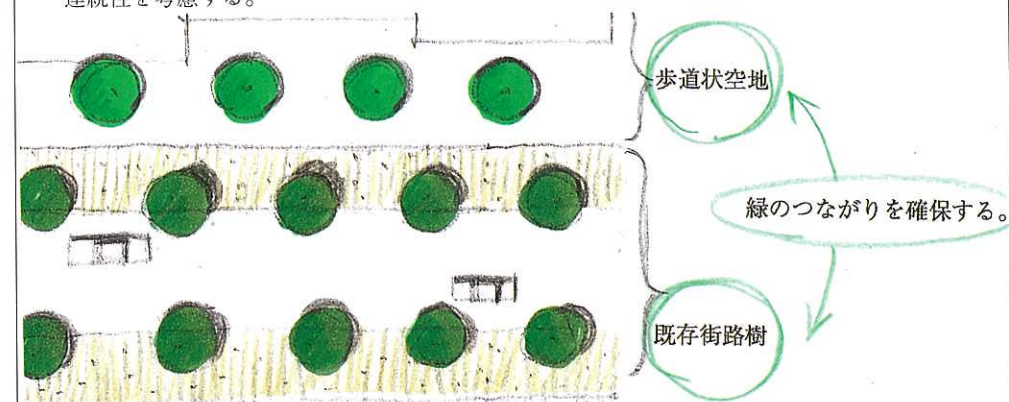
街路の緑との連続性に配慮した玄関先『クラブ関東』

対 処

新たに植える緑は、計画地単位で完結させるのではなく、既存の
まとまりのある公共空間などの緑と連続させていく。

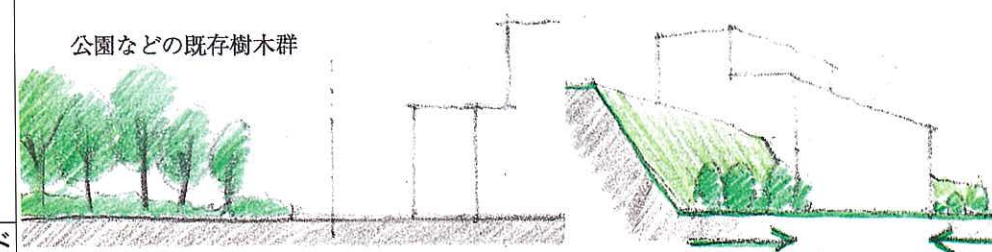
手法例

■歩道状空地では無理に高密度な列植をせず、既存街路樹を活かし同一樹種を植えるなどして
連続性を考慮する。



■公園や緑の多い場所に接する敷地は、緑を敷地内に引き込んだり、対比させるなど、既存の
緑と関連づける。また、残存する斜面緑地などのつながりを分断しないようにする。

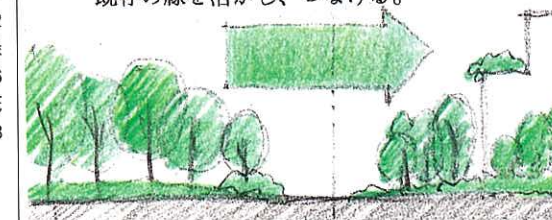
公園などの既存樹木群



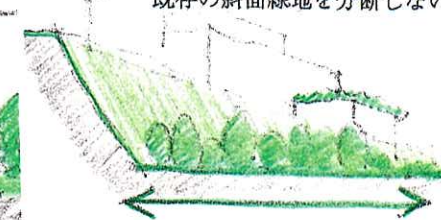
関連キーワード

- 緑の環 ●32
- あいだの緑 ●46
- 身近かな花 ●48

既存の緑を活かし、つなげる。



既存の斜面緑地を分断しない。



●見え隠れの庭●

千代田区には緑豊かな大小の庭が数多くある。
道行く人がその全部を見ることは不可能だとしても、
庭の一部が垣間見えれば緑豊かな環境を共有することができる。



『メキシコ大使館』

対 処

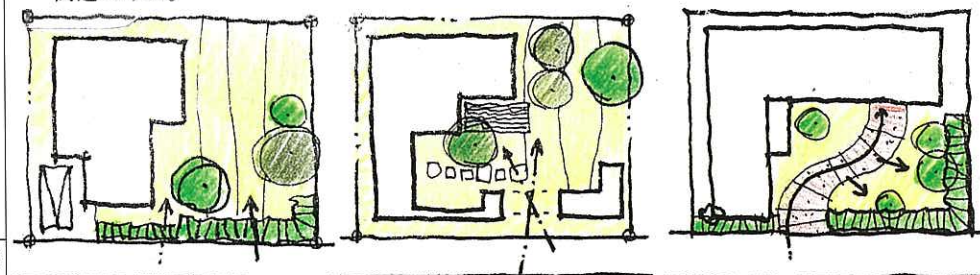
美しい庭は、敷地を取り巻く歩行路から垣間見えるように配慮したい。

手法例

■私的な領域に影響のない範囲で、道路側から庭の一部が垣間見えるような場所を設ける。

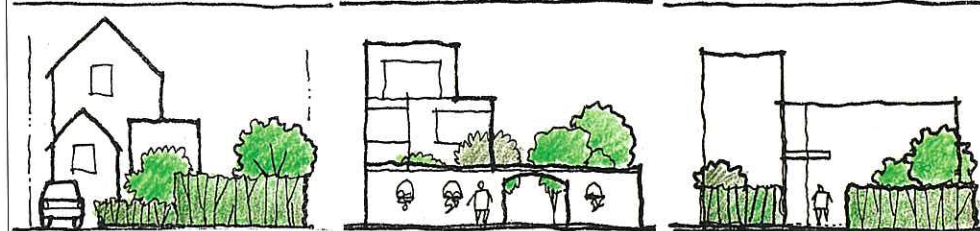


■塀や壁を設ける場合は完全に閉鎖的なものとせず、所々で庭の緑や大きな樹などと視覚的に関連づける。



関連キーワード

- 壁の表情 ●18
- 屋上の庭 ●44
- あいだの緑 ●46
- 身近かな花 ●48



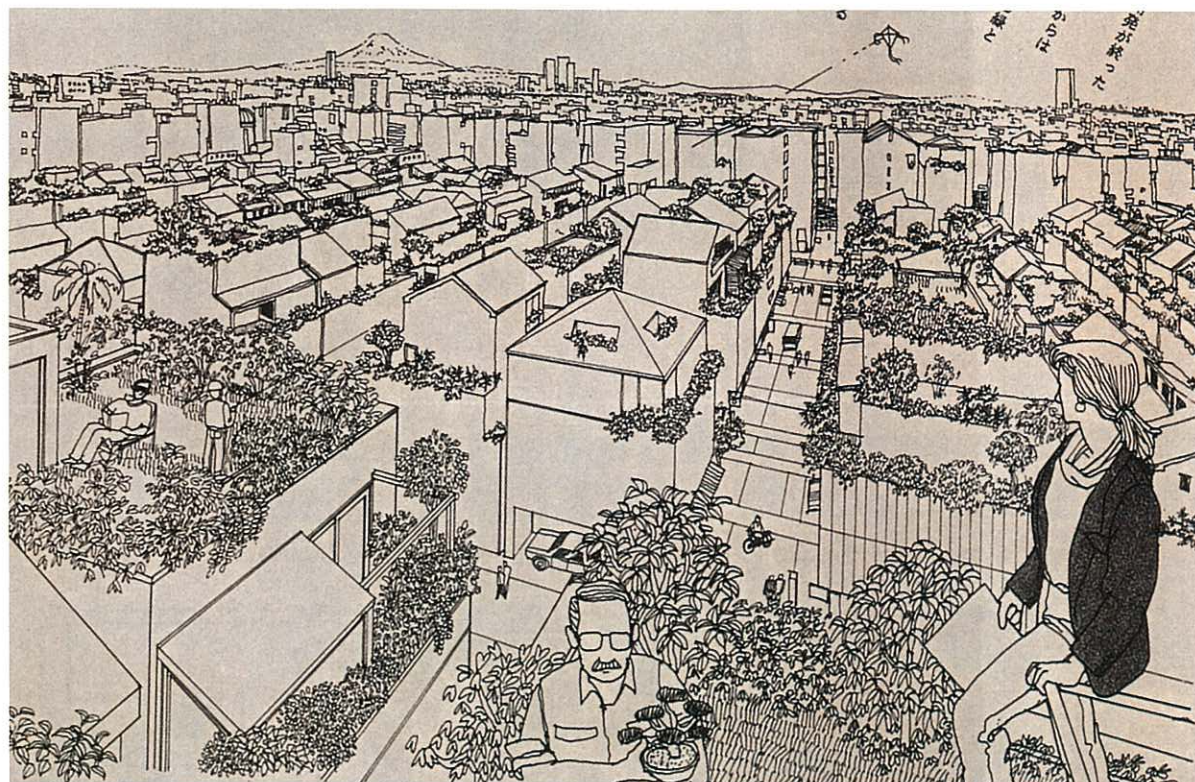
生け垣越しに見せる。

塀の一部の開口部から見える。

進入すると見えてくる。

●屋上の庭●

高密度の都市の中では、個々の敷地でまとまった庭を作るのがむずかしい。しかし、建物の屋上をうまく利用すると、陽光と開けた眺望を楽しめる庭を得ることができる。



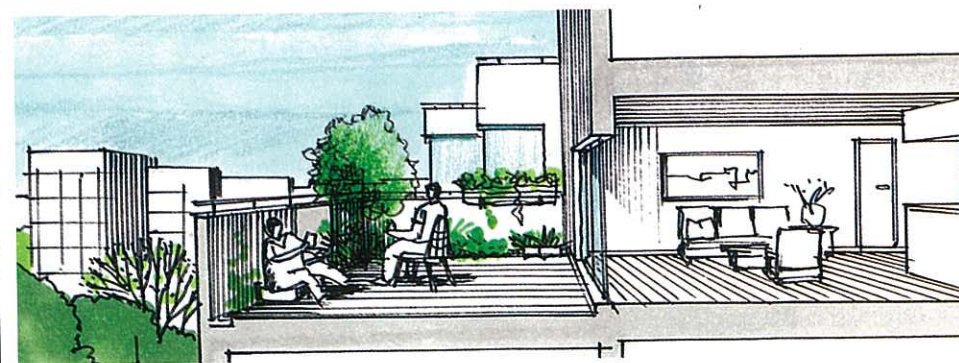
千代田区『神田下町の住宅街並み設計競技・最優秀賞』
(巴計画／宮脇檀建築研究所・積水ハウス開発事業部)

対処

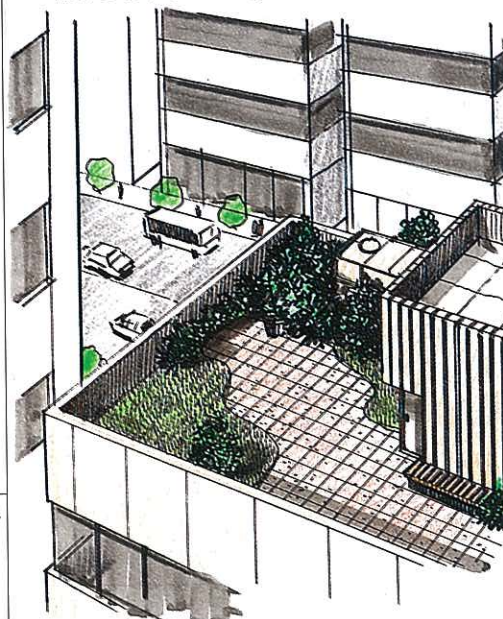
敷地内に庭がとれないときは、屋上の一部を利用して、くつろげる庭を確保することも考える。

手法例

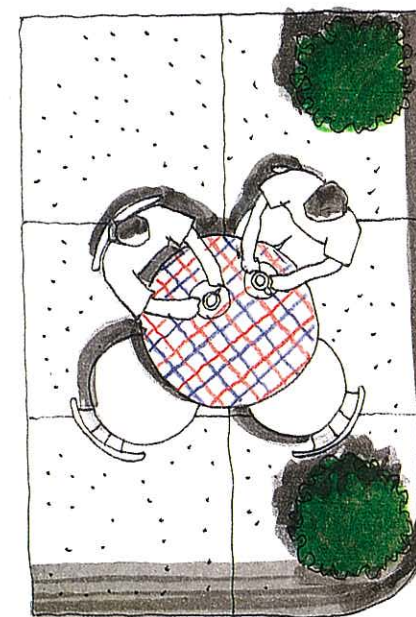
■居住室から直接庭に出られるようにする。また、風から守られるような配慮をする。



■他の建物や周辺道路から見られることを考慮し、設備、機器類の配置も併せて検討し、緑化などをするとよい。



■バルコニーやテラスは、テーブルや椅子がおける程度の奥行きを確保する。



関連キーワード

- あいだの緑 ●46
- 身近かな花 ●48
- 目立たない設備 ●66
- 人の気配 ●82

●あいだの緑●

無機質な空間をうめるように緑を育てることで、
建物の間、建物と人々との間をつなげ、
まちなみに大きなまとまりを生み出すことができる。



『マロニエ通り』

対 処

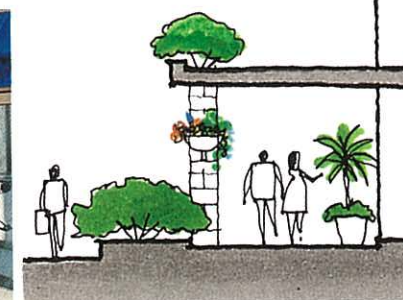
無表情な壁面が長大に連続するような場合、建物と建物、建物と街路、擁壁と街路の間や舗装面に、小さな緑を育てる工夫をする。

手法例

■直立した高い壁などは蔦などの蔓性植物を這わせると、その圧迫感が和らげられる。



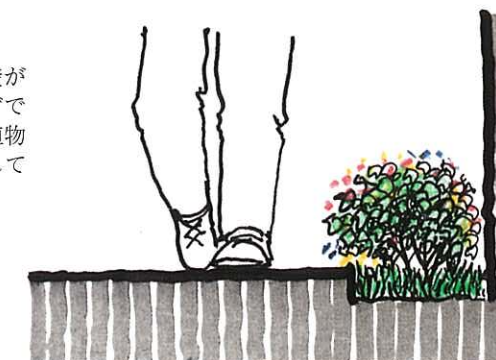
■建物の壁や窓先に緑や花が施せる場所をあらかじめ設ける。



関連キーワード

- 壁の表情 ●18
- つながる緑 ●40
- 身近な花 ●48
- 人の気配 ●82
- 建物の縁 ●108

■ほんの少しの舗装面の隙間や建物や擁壁が地面と接する足元は、石やモルタルなどで埋めず、グランドカバーなどの地被類植物や花を植えられるように土の部分を残しておく。



●身近な花●

都会の花々は、人の手が入らないと育ちにくい。
道端や、店先などで育てられた花は、
道行く人々に安らぎを与えるだけでなく
地域での維持管理意識や日常生活における
人々のつながりにも寄与する。



『皇居外苑』

対 処

人が座ったり、一息入れるような場所に、手で触れたり、香りをかげるような花の育成を積極的に行い、環境形成の小さな道具とする。

手法例

■まちかどや階段、入り口や店先、人々の活動の節目となる場所に花を植える。



『平河町にて』

■人々が集まる広場、人だまりなどには象徴的に落葉樹や花や実のなる木を植える。



『英国大使館』

■花壇の周囲には人が座れる場所を設ける。花壇は踏まれないように地面より少し高くする。



『桔梗濠に面した花壇』

関連キーワード

あいだにある住宅
●58
人の気配
●82
陽のあたる場所
●84

●子供の笑い声●

子供たちは、まちで大人が働く姿や、活動する場面を見ながら成長する。公園や、施設内だけが子供の遊び場ではなく、まち全体が冒険心にあふれて探検できるように工夫され、地域と触れあう機会をつくれば、子供たちの笑い声が絶えないまちになる。



放課後の『雙葉学園』*

対 処

子供たちが車などから安全に守られ、周辺地域からも多くの目が注がれるように歩行路を計画する。
その歩行路には、地域社会のさまざまなシーンに遭遇できるような工夫やきっかけが必要となる。

手法例

- まちや地区単位で子供たちが安全に遊べる共有空間を生み出す。
- 通学路を中心にコミュニティー道路などの整備を進める。
- 主要な通学路に沿って人の目が注がれる窓を設けるなど、暗くて閉鎖的な場所を作らないように配慮する。
- 子供たちの利用が考えられる公開空地には、遊べる場所を確保する。



『和泉公園子供の池』**



『麹町子供広場』**



『霞ヶ関外務省前』**

関連キーワード

- 人を育む場所
 - 26
- あいだにある住宅
 - 58
- 世帯の混合
 - 60
- 人の気配
 - 82